NIE実践報告

1．タイトル：☆「食育新聞」をつくろう

2．学校名

新潟県長市立東北中学校

3．実践者名（代表者名）

井口尚美

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・国語　35人

6．単元（本時の学習課題）名

「世界の飢餓と私たちの給食」（食育）

7．目標(狙い)

世界の飢餓の状況について理解を深める。食べ物のありがたさを感じ、給食の食べ残しについて問題意識をもつ。

8．評価の視点

世界の飢餓の状況について情報を収集することができたか。読み手を意識した新聞を作ることができたか。飢餓や給食の食べ残しについて理解を深め、自分なりの考えを持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「世界の飢餓状況と私たちの給食について考えよう」（1時間：本時）
「世界の飢餓について情報を収集しよう」（2時間）
「新聞作りの方法を知り、自分たちの新聞「イヌ中」を決めよう」（1時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①給食が残る理由について考える。
②「5秒に1人飢え死に」の記事を読み、感想を書く。
③資料を見て、世界の飢餓について知る。
④世界の飢餓について班内で意見交換する。
⑤「給食残飯ゼロ100日達成」の他校の実践記事を読み、東北中の残量を考える。

（留意点）
・新聞記事の内容が十分理解できるように、教師が解説を加える。
・飢餓が少しでも実感できるよう、救援物資を模したものを食べる活動を入れる。
・班内の意見交換では、1人1人の意見がしっかりとでるようにKJ法を取り入れる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒の感想を見ると、85%の生徒が「給食を残すのはよくない」「これからは残さない」と書いている。また、「食べ物のありがたさ」を書いていた生徒が35%いた。生徒たちが、本時の授業で驚いた事実は、大きく次の3点だった。①「5秒に1人という割合で飢え死にしていること」、②「日本が世界一食べ残しをしていること」、③「県内の中学校で給食残飯ゼロを続けている学校があること」だった。

12．成果と課題

授業後1ヵ月間ほどは、給食の時間に「残さないようにしようと」声をかけ合う姿が見られ、クラス全体の残飯はほとんどなかった。2つの記事を扱った授業をきっかけに、給食の残量について問題意識をもたせることができた。しかし、本時の授業では、1時間の中にさまざまな活動を組み込みすぎて、じっくりと記事について考えたり、互いの意見を交換したりすることができなかった。発問や与える情報をより精選する必要がある。